

カラヴァッジオ Caravaggio
の聖パウロの回心の絵を通
して

小泉友美
KOIZUMI Tomomi



—

目次

カラヴァッジョ Caravaggio の聖パウロの回心の絵を通して	1
---	---

カラヴァッジョ Caravaggio の聖パウロの回心の絵を通して

キリスト教の信仰は、罪を犯した人達を改心の光へと導きます。

イタリア人画家のカラヴァッジョ Caravaggio の伝記を、画集を通して読むと、いかにキリストの愛によって慰められて、聖なるものへと導かれて、救われていったかわかります。

カラヴァッジョの自画像(1621年)を見ると、縮れた真っ黒な髪に覆われた、濃く、無造作なぼさぼさの髭に、一文字に固くつむんだ口は、いかにも気難しく、一筋縄ではいかない性格を思わせます。

こちらを笑顔なく、にらむ様なカラヴァッジョの肖像を前にすると、私達が何を考え、生きているのか、何者なのか、考えさせられます。

カラヴァッジョ Michelangelo Merisi da Caravaggio (1571-1610) は、バロック期のイタリア人画家。

1571年9月29日の大天使ミケランジェロの記念祭に、イタリアのミラノで大家族の長男として生まれました。生まれた日に因んで、天使の加護を受ける事が出来る様にと、大天使ミケランジェロ Michelangelo の名前を与えられました。

15世紀から16世紀までのイタリアにおいて、学者や芸術家を保護したスファルツァ家(何事をも成し遂げられる者を意味する)出身。

父親は建築家であり石工で、幼少期より漆喰を塗る作業を目の前にする事で、絵の技術を自然に学びました。

1576年にペストが流行して、翌年の1577年、6歳の時に父親、兄を亡くしました。1584年、13歳の時に母親死去。相続したお金をすべて使い果たしました。21歳の時、ミラノからローマへと移り、当時のローマの町は、大規模な教会や邸宅が次々と建築されて、16世紀のカトリックとプロテスタントの宗教改革が行なわれていた最中でした。無一文で無名の若者として、ローマに暮らしました。

血気盛んな性格の為に、時折とんでもない事をしました。1600年の10月から1605年の9月にかけて、(29歳の時より)11件の裁判の記録が残されています。

自分のアトリエに光を取り込む為に天井に穴を開けて、大家に追いだされて、無許可で剣を持った事、路上で男性に襲いかかった事、居酒屋を渡り歩いて、喧嘩や口論に明け暮れる日々を送った為に、カラヴァッジョと上手く付き合う事の出来る友人はほとんどいませんでした。

1606年、35歳の時、カラヴァッジョは乱闘で若者を殺して死刑宣告を受けて、お尋ね者となり、ローマから逃げました。裁判の記録には、不安定かつ、変わり者で極度の浪費癖がある人物として批判されています。

その後、パトロンのマルツィオ・コロナ公爵の庇護を受けてイエス・キリストが天をあげて祝福するエマオの晩餐(1606年)を創作しました。

1607年6月24日、マルタ騎士団のガレー船に乗ってマルタ島に向かいました。カラヴァッジョは、マルタ騎士団長のアロフ・ド・ヴィニャクールに面会を求めて、カラヴァッジョが死刑宣告を受けたいわく付きの人生を知った上で、マルタ騎士団に受け入れられました。

軍用ガレー船での訓練、剣術修行を通しての騎士への見習いをしました。ところが、1609年にマルタの騎士となり、修道士として生活していたものの、乱闘騒ぎを引き起こして、相手に負傷させて騎士号を剥奪させられて、マルタ島より追いだされて、罪の赦しをローマ法王に得る為に、ローマへと向かい、その旅の途中亡くなりました。死因は謎で、マルタ島で騎士に暴行を加えた事での復讐として、カラヴァッジョが殺されたという説が有力です。

カラヴァッジョは、聖パウロの回心をテーマとして、2作品描きました。1作目の1599年に創作された聖パウロの回心は、暴れまわる白い馬の光が強調されて、聖パウロは両掌で両眼を覆っています。

まったく光は無く、暗さの中にあります。

2作目の1604年の作品は、聖パウロは天上の白い眩しい光を手で隠さずに、そのまま顔一面に受け入れるまま。

ローマの聖ポポロのマリア教会 Santa Maria del Popolo 内にある、カラヴァッジョの1604年頃にマルタ騎士団の修道士となる前に創作されたダマスカスへの途中での聖パウロの改心は、カラヴァッジョの内心の悶え、苦しみ、そして、キリストへの信仰の強さを思わせます。

聖パウロの回心は、使徒言行録(9章1-9, 22章6-16, 26章12-18節)に記述される逸話です。

聖パウロは、キリスト教徒になる前は自分自身、パリサイ人としてキリスト教徒を迫害していましたが、ダマスカスへの向かう旅の道の途中、突然、天上から強い光がパウロの全身を照らしました。(コリントの信徒への手紙1,9章)あまりの眩しさに、目が眩んで地面に倒れました。

“パウロ、パウロ、何故私を迫害するのか?”と呼びかける声を聞きました。

そして、パウロが、“あなたはどなたですか?”と問うと、“私は、あなたが迫害しているナザレのイエスである”という答えがありました。

その後、自分の目が見えなくなりました。

このカラヴァッジョのダマスカスへの途中での聖パウロの回心の絵は、盲目になるくらいの眩しい光の中、キリストの生の声を聞いた声で、人生が180度変わった聖パウロの姿を表現しています。

この眩しい天上の光は、神の偉大な栄光そのものであり、(コリントの信徒への手紙2,4

章 6 節) キリストの顕示です。聖パウロが落馬して、地面に倒れた事は、神から見放された境地 (マタイの福音書 27 章 46 節) の怖さ、絶望を意味して、不安から解放されてゆき、旧き人より新しき人へと、死から生へと向かいました。

当初、迫害する者が、改心によって後に殉教者として、迫害する者となりました。

カラヴァッジョは、この聖パウロの心境を、粗末な白亜麻を基にして、影の土地であるシエナの暗い、白黒二色で引き立てています。

白馬は、石炭に白色をよく混ぜ合わせて、銅と鉱岩の粉末によって創られた黄色で、天上の光を表現しています。

白い馬の蹄、白い馬の鼻に白い光が照らし、地面に倒れたパウロ自身の両腕は天上へと大きく開かれて、パウロの纏っている真っ赤な顕世の権力を象徴する戦士の服、地面に投げだされている波うつマントは、暗闇に浮かびあがっています。

パウロは、声は聞こえても、誰の姿も見えずに、物も言えずに倒れていました。

パウロは、地面から起き上がって目を開きましたが、何も見えませんでした。

遂に、自分を包む天上の光は、太陽よりも明るく輝いて、周りを照らしました。

愛は死よりつよし。

すべての人類を救うこの神の、そして神への情熱的な愛は、死よりも強いこの愛は、イエス・キリストの御名の元に表現されています。

このカラヴァッジョの絵を見て、いかに絶望していても、信仰によって、愛を受け、死から生へよみがえる力のテーマが、強く、暗色と光 (白色) によって、こちらへとうたえて来ます。

カラヴァッジョの苦しみが、聖パウロが神の光によって打たれて、人生が変わったように、その強き祈りがこの絵にはこめられているように思えます。

2026 年 5 月 5 日 フランス・ アンジェ Angers 平和 Pax 祈

カラヴァッジョ Caravaggio の聖パウロの回心の絵を通して

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
